

科目名 (科目番号)	生理機能検査学Ⅲ	教員名 飯田 典子	学科等	臨床検査	必修	履修年次	4
	(時間割参照)		曜日・時限等	時間割表参照		単位数	1
			授業形態	講義	オフィスアワー	B205研究室	
授業概要	生理学、生理機能検査学Ⅰ、生理機能検査学実習Ⅰ、生理機能検査学Ⅱ、生理機能検査学実習Ⅱ、臨地実習で習得した知識を整理し総括する。さらに、臨床症例報告から検査結果と疾患との関連性や検査への応用力を習得する。						
目的・目標	目的:生理学、生理機能検査学Ⅰ・Ⅱ、生理機能検査学実習Ⅰ・Ⅱ、臨地実習で習得した知識を基に、検査結果と病態・疾患との関連や検査への応用力を習得する。 目標:生理学、生理機能検査学Ⅰ・Ⅱ、生理機能検査学実習Ⅰ・Ⅱ、臨地実習で習得した知識を基に、検査結果と病態・疾患との関連が理解できる。						
準備学習	毎回の授業について少なくとも1時間程度の予習・復習をすること。						
授業計画	回	授業項目	到達目標・学習内容				
	1	循環器系検査の確認 (Ⅰ)	心電図検査法の復習や不整脈および虚血性疾患の心電図、心臓肥大・脚ブロック・種々の致死性心電図などの判読法について理解を深めさせる。				
	2	循環器系検査の確認 (Ⅱ)	心音図および心機図検査(頸動脈波・心尖拍動など)と心疾患(大動脈弁狭窄症など)について理解を深めさせる。				
	3	脳神経・筋系検査の確認 (Ⅰ)	脳波導出法、正常脳波(睡眠脳波を含む)と各種賦活法による器質的および機能的脳疾患と脳波パターンとその臨床応用について理解を深めさせる。				
	4	脳神経・筋系検査の確認 (Ⅱ)	筋電図検査と神経・筋疾患について、またCMAPやSNAPを用いた末梢神経伝導検査の臨床について理解を深めさせる。				
	5	呼吸機能検査の確認 (Ⅰ)	組織呼吸と肺呼吸およびガス代謝について復習し再度理解を深めさせる。				
	6	呼吸機能検査の確認 (Ⅱ)	肺内ガス分布・肺拡散能力検査および換気力学的検査法(肺コンプライアンスと呼吸抵抗など)について理解を深めさせる。				
	7	血液ガス分析	血液ガス分析の測定原理について復習すると共に、酸塩基平衡と呼吸器疾患についても理解を深めさせる。				
	8	呼気ガス分析とエネルギー代謝	呼気ガス分析の測定原理と呼気CO2排出量とO2摂取量から基礎代謝を測定し、その変動因子について理解を深めさせる。				
成績評価の方法・基準	期末試験(100%)にて評価する。						
教科書	最新 臨床検査学講座 生理機能検査学 第2版 練習問題および波形などの資料を適宜配布		東條尚子・川良徳弘 編著		医歯薬出版		
参考図書	臨床検査法提要(改訂第35版)		金井正光 監修		金原出版		
教員からのメッセージ	2年次に修得した生理機能検査学Ⅰ・Ⅱについて国家試験ではどのように出題されているかを中心に進める。しっかり生理機能検査学Ⅰ・Ⅱの復習をしてから臨むこと。 総合病院で勤務した臨床検査技師がこの授業を担当します。						